

第5学年 国語科学習指導案

に組 男子 18 名 女子 19 名 計 37 名
指 導 者 中 熊 豊 仁

1 単 元 「きくこと」について考えよう

(教材「きいて、きいて、きいてみよう」)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第4学年の「大事なことを落とさずに聞こう」の学習で、自分の目的と照らして、自分にとって大切な情報は何かを考えながら聞く能力を身に付けている。また、「調べて発表しよう」の学習で、調べて分かった事柄や事実などを相手や目的に応じて筋道立てて話そうとする態度を身に付けている。さらに、目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、聞いたりしたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べる等して考えをまとめる能力や、相手や目的及び意図に応じて話の構成を工夫しながら適切に話したり聞いたりしようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元『「きくこと」について考えよう』(教材「きいて、きいて、きいてみよう」)を設定した。

この学習は、話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う「自分の考えをまとめて、討論しよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「きいて、きいて、きいてみよう」は、友達をよりよく理解するために、全員が聞き手、話し手、記録者の3つの役割を担うインタビュー活動を通して、「きくこと」について考える構成になっている。情報を得るだけでなく、臨機応変に質問を変えたり、収集した知識を関係付けたりしながら話し手の魅力まで引き出すというインタビュー活動を行う本教材は、相手や状況に応じて判断しながら情報を収集し、適切に整理したりまとめたりする力が必要なこの期の子どもたちに適した教材である。また、3つの役割を経験することで、お互いの意図をとらえながら「きくこと」や相手と自分の感想を比べながら考えをまとめることの大切さに気付くことができる。さらに、話し手について事前の情報収集を行い、質問の内容や順序を考える構成になっており、相手や目的、意図に応じて話の構成を考えて話したり聞いたりしたいという意欲を高めることができる教材と言える。

そこで、本単元では、友達をよりよく理解するためのインタビュー活動には、どのような「きき方」が必要なのかをインタビューのモデルでつかませた上で、実際にインタビュー活動を行わせ、その必要性を実感させることが大切であると考えた。

具体的には、まず、聞き手、話し手、記録者の3つの役割による試行のインタビュー活動でうまくいったことやうまくいかなかったことを整理させ、インタビューにおける3者のよりよい「きくこと」について課題意識をもたせる。

次に、狭い範囲での試行錯誤として、インタビュー活動におけるよりよい「きき方」に気付かせるために、試行のインタビュー活動とインタビューのモデルを比較させる。その際、「きき方」の内容と方法を整理する。そして、広い範囲での試行錯誤として、インタビュー活動に必要な情報の収集を行わせたり、質問の構成について考えさせたりすると共に、インタビュー活動のシミュレーションを行わせる。

さらに、試行のインタビュー活動と同じ相手とインタビュー活動を行い、よりよく理解したことやインタビュー活動がうまくいったりいかなかったりした要因について話し合わせ、よりよい「きき方」への意識が高まるようにしたい。その上で、他の子どもとのインタビュー活動や活用場面の想起を行わせたりして、学んだことが生かされていることを実感させたい。

このような学習を通して、子どもたちは、試行(試し作り)から、学習の見通しをもち(計画性

の向上), 課題解決のために柔軟にコミュニケーションを図り(協調性の向上), 「国語の能力」を身に付け, 実生活に生かしていこうとする確認する(責任感の高揚)ことで, 高まった自分を認めること(自己肯定感の醸造)ができると考える。

なお, これらの学習によって得られる能力や態度は, 相手の意図をつかみながら聞き, 自分の意見と比べながら考えをまとめると共に, 目的や意図に応じて話の構成を工夫しながら話そうとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが, 本単元の学習や本教材に対して, どのような興味や関心を持っているかを調査した結果は, 次の通りである。(数字は, 人数を表す)

①インタビューの経験 ・ある(37) ・ない(0)	②インタビューの相手(複数回答) ・友達(37) ・家族(18) ・その他(15)
③インタビューする時に大切なこと(複数回答) ・分かりやすい質問(8) ・あいさつと御礼(7) ・メモをとる(6) ・具体的に聞く(4) ・内容を決めておく(4) ・丁寧な言葉遣い(4) ・最後まで聞く(2) ・うなずきながら(2) ・大きな声(3) ・目を見る(2) ・インタビューの目的(1)	④インタビューされる時に大切なこと(複数回答) ・はっきり答える(8) ・分かりやすく説明(5) ・大きな声(6) ・具体的に(5) ・正確に答える(2) ・最後まで聞く(2) ・大切なことに気を付けて(2) ・伝わる態度(2) ・伝わる言い方(2) ・正直に(1) ・メモ(1)
⑤インタビューの質問内容 ・十分(31) ・不十分(6)	⑥メモのとり方 ・十分(32) ・不十分(5)
⑦インタビューの広がりや深まり ・広がりや深まりがある(6) ・広がりや深まりがない(31)	
⑧きき方で大切なこと(複数回答) ・相手の目を見て(18) ・しずかに(10) ・体を向けて(6) ・姿勢(6) ・メモをとる(6) ・よさや思ったことを見つける(4)	

子どもたちは, これまでの学習の中でインタビューの経験がある。(①) インタビューの相手は, 友達が最も多く, 家族や調べ学習で必要となった人が続く。(②) これまでの学習や経験からインタビューをしたりされたりする時に大切なこととして, 内容面よりも態度面を挙げる回答が多いこと, テーマを与えた一問一答式のインタビューは十分にできる子どもが多いことから, 臨機応変なやりとりや収集した知識を関係付けようとするものの大切さに気付いている子どもは少ないと考えられる。よって, 1つの質問から答えが広がったり深まったりすることは少なく, インタビューを, 情報を得るためだけの手段と考えている子どもが多いことが分かる。(③, ④, ⑤, ⑦) メモのとり方は, ポイントをおさえて十分にできる子どもが多いが, メモを基に整理して発表することになると苦手と考える子どもがいる。(⑥) また, 「きき方」で大切なことについても, 内容面よりも態度面を挙げている子どもが多く, 内容面に広がりや深まりをもたせる「きき方」を意識できるようなテーマで学習活動を行わせる必要がある。(⑧)

(4) 指導上の留意点

以上のことから, 指導に当たっては, 子どもが自分のインタビューの仕方から課題を見つけ出し, さまざまな「きくこと」の大切さに気付くよう, 学習内容や指導方法の設定を次のように工夫することが大切であると考えられる。

ア 一問一答ではなく, 相手をよりよく理解させるためのインタビューを行わせるために(多面・総合, コミュニケーション), インタビュー活動の準備として, 質問の内容や順序だけではなく, 話し手とは違う友達とペアになって具体的な答えの予想をさせ, 答えが返った後に, どのような質問が話を広げたり深めたりするのか, シミュレーションをさせる。

イ 臨機応変なやりとりや収集した知識を関係付けながらインタビューすることの大切さに気付かせるために(多面・総合), 自分たちの試行のインタビューの録画映像とインタビューのモデルを比較させ, その違いを考えさせる。その際, 全員が記録者となって, インタビューのメモを取り, 内容と方法の両面から感想や考えを述べ合うようにする。

ウ 学習に対する有用感や成就感を味わわせ, 学びの総合化を図るために(吟味), いろいろな子ども同士でインタビュー活動を行わせたり, 本単元の学習が今後他教科等や日常生活のどのような場面で生かされるか話し合わせたりしながら, この学習で身に付けたことを振り返らせる。

3 目標

- (1) 話し手に関心をもち、目的や意図に応じた「きき方」の内容や方法について考えながらインタビュー活動を行おうとすることができる。
- (2) 聞き手、話し手、記録者の3つの立場における「きき方」を比較し、よりよい「きき方」について自分の考えをまとめることができる。
- (3) 収集した知識や情報を関係付け、目的や意図に応じて構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができる。

4 指導計画（全6時間）

※□は、日常生活や他教科等との関連を示す。

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	〇〇さんは、どんな人だろう。もっと知りたいな。 どんな人かは、まだよく分からなかった。どんなふうにきけばいいのかな。	1 教材との出会い・試行・課題解決の見通し 「友達と互いによりよく理解し合うためのインタビューをしてみよう。」 ・インタビューの試行（試し作り） ・単元の目標設定 ・学習計画の立案	○ 単元や教材への興味・関心や課題意識を高めさせるために（未来予測），インタビューの試行をさせ、一人一人の課題を明らかにさせる。 ○ 課題を明確にするために（未来予測），インタビューの話し内容と話し方の視点を話し手・聞き手の立場で整理する。
しらべる①	相手の答えをきいてから思い浮かんだ新しい質問をすればいい。 自分の経験も入れるといいのだな。	2 限定された場面の試行錯誤 「友達をよりよく理解するには、どのようなことをどのようにきけばよいのだろうか。」 ・インタビューのモデルについての話し合い ・インタビュー活動の形態や方法の理解（きき手、話し手、記録者）	○ 自分の活動を客観的に分析したり、学習前後の変容を学習者自身でとらえさせたりするために（吟味），インタビュー活動の様子を録画して、学習前後の映像を比較させる。 ○ 聞き手、話し手、記録者それぞれの立場での「きき方」の大切な点について話し合いによって気付かせるために（吟味、多面・総合、協力、参加），試行のインタビュー活動とインタビューのモデルを比較しながら話し合わせる。
ふかめる①	学んだことを生かして、よりよいインタビューになるようきき方を考えよう。	3 広い範囲での試行錯誤 「友達とよりよいインタビュー活動を考えよう」 ・インタビュー内容の下調べ ・インタビュー活動の想定 ・インタビュー活動のシミュレーション	○ 聞き手としてのみではなく、話し手としての大切な「きき方」について考えさせるために（未来予測、協力、コミュニケーション），インタビュー活動の話題をお互いに話し合っ決めて上で、話し手としての「きき方」や答え方を想定させる。
ふりかえる②	インタビューする内容がふえたよ。友達のことも分かったけど、みんなの感想から新しい自分を見つけられた。	4・5 試行（試しづくり）の見直し（本時） 「友達をよりよく知るためのきき方について考えたことは、本当に大切なのだろうか。」 ・インタビュー活動 ・学習の振り返りと変容の確認	○ 学習の成果に気付かせたり、自分の変容を実感させたりするために（吟味、多面・総合），映像及び自己評価や相互評価からその要因を話し合わせる。
いかす①	のぞみや社会の時のインタビューで生かそう。 ききかたは、目的によってちがうということが分かったよ。	自分の経験と重ね、感想や考えをもちながらきくと、インタビューがつながり、友達や自分をよりよく知ることができる。 6 活用場面の想起 ・他の友達へのインタビュー活動 ・日常で活用できる場面の想起	○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために（協力、つながり、参加），他の友達へのインタビュー活動を行わせ、自己の高まりを実感させると共に、どのような場面で活用できるかを話し合わせる。

5 本 時 (4 / 6)

(1) 目 標

試行のインタビュー活動と見直しのインタビュー活動を比較することを通して、友達をよりよく知るためのきき方やそのよさについて考えることができる。

(2) 本時の展開に当たって

友達をよりよく知るためのきき方やそのよさを実感しながら考え、明らかにすることができるようにするために (多面・総合)、試行と本時のインタビュー活動を、映像によって比較させる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みと おす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習課題を設定する。 友達をよりよく知るためのきき方について考えたことは、本当に大切なのだろうか。	(分) 7	○ 聞き手、話し手、記録者の3つの立場での「きき方」への課題意識をもたせるために(未来予測)、話し合いに基づいてまとめた「きき方」についての一覧表を用いて確認する。 ○ 課題解決の見通しをもたせるために(未来予測)、学習の進め方や一人一人の役割を確認させる。 ○ 学習前後の変容の要因をそれぞれの立場から客観的な事実に基づいて話し合わせるために(多面・総合、コミュニケーション)、インタビュー活動の様子を撮影者に録画させると共に、撮影者も記録者としての意見や感想をもたせるようにする。
	2 課題解決の見通しをもつ。 ○ グループでインタビュー活動を行い、話し手がどんな人かを話し合う。 2 きき方やそのよさについて話し合う。 3 グループでインタビュー活動を行い、話し手がどんな人かを話し合う。 (1) インタビューの仕方を確認する。 (2) インタビュー活動をする。 (聞き手、話し手、記録者①・②) (3) 話し手がどんな人かについて話し合う。 ・一人で考える。・友達と話し合う。 [発表(記録①)者] ○○さんは、ピアノが得意だということが分かった。ピアニストになるという夢に向かって努力するがんばり屋さんだと思った。 [聞き手] 自分も○○さんの意外な面を知ることができた。自分も、今やっているサッカーをもっとがんばりたい。 話し合い 発表を聞いて、自分のことをほめてもらえたようでうれしかった。もっともっとがんばりたいという気になった。 [話し手]	28	○ 一人一人、感じ方や考え方に共通点や相違点があることに気付かせたり、きき方を生かす友達理解が深まることを実感することで感ぜたりするために(多面・総合)、話し手がどんな人かについての考えを、理由付けをしながら話し合わせる。 個 感想の交流がうまくできていない子どもたちには、記録者のメモを基に、自分はどのように感じたのか、教師と一緒に交流ができるようにする。 ○ 変容の要因についてのお互いの考えを明確に述べたり、話し合いの内容を焦点化したりできるようにするために(多面・総合、協力、コミュニケーション)、インタビューが変わった要因を考える際は、聞き手と話し手の視点で整理させる。 ○ みんなで考えを深めさせるために(多面・総合)、記録者も客観的な立場で、聞き手や話し手のよさについて考えさせる。 ○ 「きき方」を視覚的にとらえ、考えが整理しやすくするために(吟味)、聞き手と話し手の視点から板書を整理し、前時までに考えた「きき方」と比較させる。 ○ 考えを伝え合い、自分の変容や気付くことのできた喜びを振り返らせるために(吟味、参加、つながり)、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。
しらべる・ふかめる	4 学習前後のインタビュー活動の様子の比較から、インタビューが変わった要因を話し合う。 試行のインタビュー 比較 見直しのインタビュー ・インタビューが長く続いているよ。 ・下調べしたことがいきたよ。 ・相手の話を繰り返しているね。その間に考えたよ。 ・自分の経験を交えながら話してみたよ。 ・相手が、次にどんな質問をするか予想したよ。		
	5 友達をよりよく理解するために気を付けた「きき方」を話し合い、学習のまとめを行う。 自分の経験と結び付けながら話をきくと、考えていた質問だけではなく、新たな質問がすることができた。 相手が答えやすいように、できるだけ具体的に分かりやすい質問を考えておくことで、お互いの話が続き、相手がよく分かった。 自分の経験と重ね、感想や考えをもちながらきくと、インタビューがつながり、友達や自分をよりよく知ることができる。	10	
ふりかえる・いかす	6 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。		